

## 愛知県経済の現状と見通し <2017年9月>

### 1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	一部に弱さがみられるが、景気は持ち直しの動き 消費は力強さを欠くものの、生産活動が上向くなど、県内景気は持ち直しの動きがみられる	→	
	当面の見通し	一部に弱さが残るが、緩やかに回復していく見通し 海外情勢の不透明感や為替動向がリスクとして残るものの、所得環境の改善や生産活動の持ち直しに伴い、緩やかに回復していく見通し	→	
家計部門	個人消費	足踏みの状況 百貨店販売額は3か月ぶりの前年比減少	→	
	雇用	高水準 有効求人倍率は13か月ぶりの前月比低下	→	
	住宅投資	減速感がみられる 住宅着工戸数は2か月連続の前年比増加	→	
企業部門	企業活動	上向いている 鉱工業生産指数は8か月連続の前年比上昇	→	
	企業倒産	一進一退 企業倒産件数は2か月ぶりの前年比減少	↗	
海外部門	輸出	上向いている 名古屋港通関輸出金額は6か月連続の前年比増加	↗	
公共部門	公共投資	底入れ 公共工事請負金額は2か月ぶりの前年比減少	→	

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗：上方修正、→：据え置き、↘：下方修正を示す。

(例えば、「回復」「減速」となれば下方修正、「回復」「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、晴：晴、|：晴～曇、曇：曇、|：曇～雨、雨：雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 伊藤
	電話：059-354-7102 Mail：mir@miebank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	足踏みの状況	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

個人消費は、足踏みの状況。

個人消費の動向を支出側からみると、7月の消費支出(勤労者世帯、名古屋市)は、前年比 1.6%と3か月連続で減少(図表1)。費目別にみると、食料(同 8.2%)が2か月連続でマイナスとなったほか、前年に大幅に増加したりリフォームなどの住居(同 41.6%)が、全体を下押し。もっとも、マイナス幅は前月から縮小。

個人消費の動向を販売側からみると、7月の県内百貨店販売額は、夏のセールを6月末から開始したため、婦人服などの衣料品の売上が落ち込み、全体では前年比 4.3%と3か月ぶりの減少。また、スーパー販売額は同 1.3%と、農産品の相場安の影響もあり飲食料品がふるわず、8か月連続で減少(図表2)。

8月の新車乗用車販売台数(含む軽乗用車)は、前年比 0.5%と2か月連続で減少(図表3)。車種別にみると、前年に燃費偽装問題で販売台数が落ち込んだ軽乗用車(同 +5.4%)はプラスを維持したものの、新型車効果が一巡し、普通車(同 3.0%)、小型車(同 1.7%)が減少。

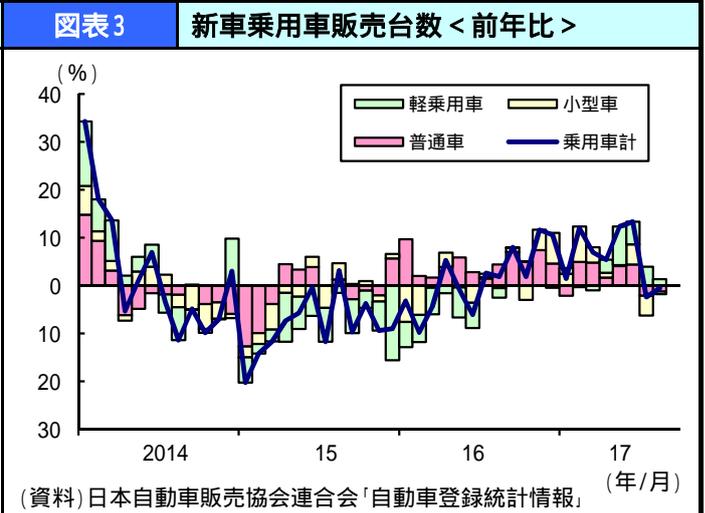
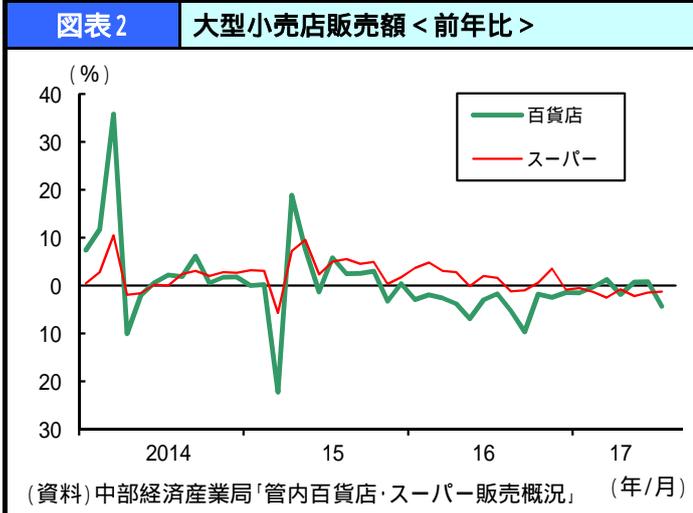
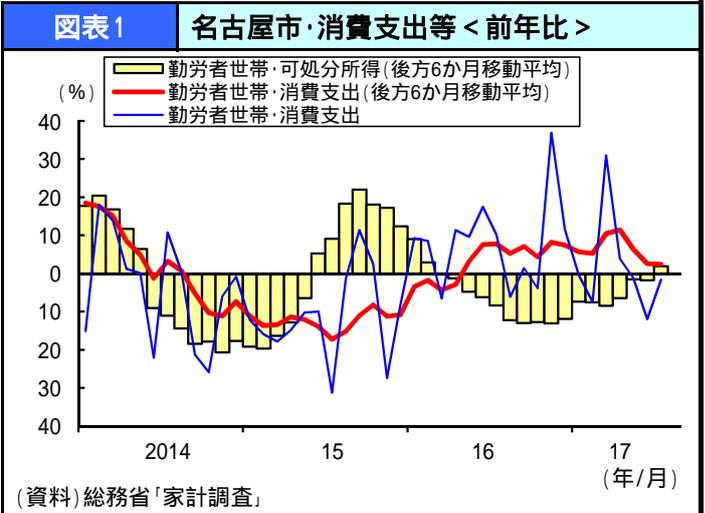
見通し

7月の勤労者世帯・可処分所得(後方6か月移動平均)は、2016年2月以来の前年比プラスとなるなど、所得環境の改善が緩やかに続いており、消費を下支えする見込み。そのようななか、財政健全化の先送りなどを受けた将来不安が重石となるものの、株価の上昇や大手小売の日用品の値下げなどを背景に消費意欲の改善が期待。もっとも、天候不順により野菜などが高騰すれば、実質購買力が低下し、消費を下押しする可能性もあり、先行き、個人消費の持ち直しは緩やかにとどまる見通し。

**7月 勤労者世帯・消費支出(名古屋市)**  
 前年比 1.6%(3か月連続の減少)  
 ・住居:前年比 41.6%(2か月ぶりの減少)  
 ・食料:前年比 8.2%(2か月連続の減少)

**7月 大型小売店販売額**  
 ・百貨店:前年比 4.3%(3か月ぶりの減少)  
 ・スーパー:前年比 1.3%(8か月連続の減少)

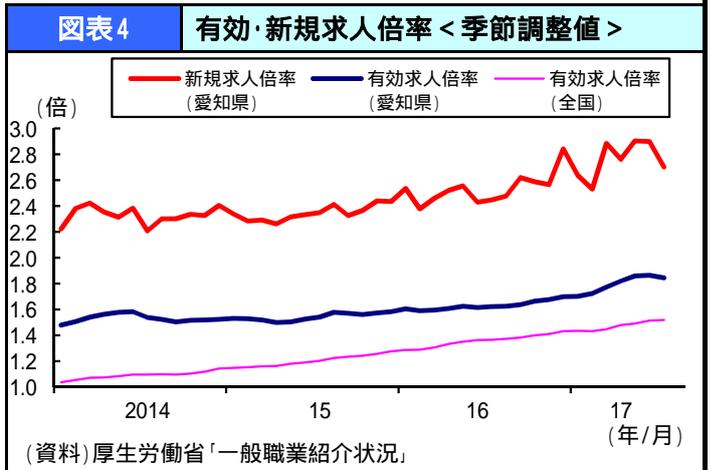
**8月 新車乗用車販売台数(含む軽乗用車)**  
 23,512台 前年比 0.5%(2か月連続の減少)  
 ・普通車 9,607台  
 前年比 3.0%(2か月連続の減少)



<b>雇用</b>	<b>高水準</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	
<p><b>現状</b> 雇用は、高水準。 7月の雇用環境をみると、新規求人倍率が2.70倍(前月比 0.20ポイント)と2か月連続で低下したほか、有効求人倍率も1.84倍(同 0.02ポイント)と13か月ぶりに低下。もっとも、水準としては高い状況が持続(図表4)。また、同月の新規求人数は前年比+2.5%と、9か月連続の増加。主要産業別にみると、製造業(同+9.5%)のうち輸送用機械器具などが増加したほか、非製造業では建設業(同+10.6%)などで増加傾向が持続。</p> <p><b>見通し</b> 高齢化の進行、外国人観光客の増加に伴い、名古屋市内を中心に医療、福祉やサービス業など幅広い業種で大幅な雇用の不足感が続く見込み。先行き、人手不足が賃金上昇につながると期待されるものの、現状は長時間労働などで対応しているため、さらに深刻化すれば企業活動の制約となる懸念も。</p>			

**7月 求人倍率(季節調整値)**

- ・有効求人倍率: 1.84倍  
前月比 0.02ポイント(13か月ぶりの低下)
- ・新規求人倍率: 2.70倍  
前月比 0.20ポイント(2か月連続の低下)

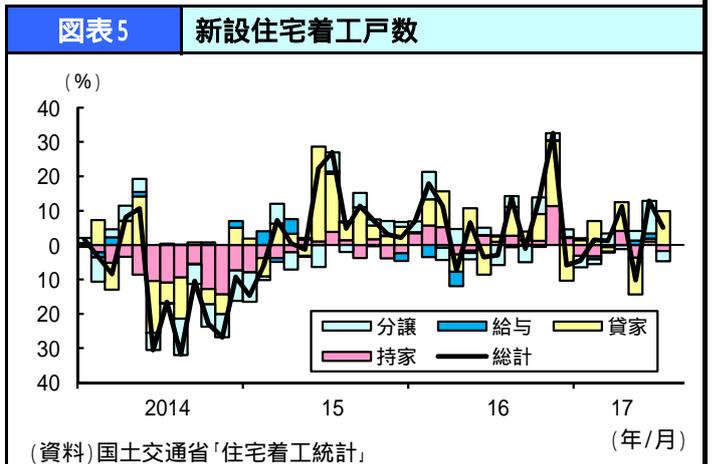


<b>住宅</b>	<b>減速感がみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	
<p><b>現状</b> 住宅投資は、減速感がみられる。 7月の住宅着工戸数は前年比+5.1%と2か月連続で増加(図表5)。利用関係別にみると、分譲(同 12.6%)のうちのマンション(同 61.5%)や、持家(同 5.2%)はマイナスに転じたものの、貸家(同+23.3%)が2か月連続で増加し、全体を押し上げ。</p> <p><b>見通し</b> 住宅ローン金利が低水準で推移するなか、住宅ローン控除などが住宅取得意欲向上につながり、着工戸数を下支えする見込み。一方、マンションなど中古物件の売買やリフォーム市場の拡大が予想されるなか、生産年齢人口の減少に伴う需要面での下押し要因もあり、貸家の大幅な増加が続く可能性は低く、先行き、横ばい圏での推移となる見通し。</p>			

**7月 住宅着工戸数**

5,849戸 前年比 +5.1%(2か月連続の増加)

- ・持家: 1,729戸  
前年比 5.2%(2か月ぶりの減少)
- ・貸家: 2,914戸  
前年比 +23.3%(2か月連続の増加)
- ・分譲: 1,151戸  
前年比 12.6%(3か月ぶりの減少)



### 3. 個別部門の動向: 企業部門

企業活動	上向いている	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

#### 現状

企業の生産活動は、上向いている。

6月の鉱工業生産指数は、前年比+2.5%と8か月連続で上昇(図表6)。業種別にみると、県内生産ウエートの約半分を占める輸送機械(同+0.5%)は、前年に熊本地震後の挽回生産があったため、低い伸びにとどまったものの、はん用・生産用・業務用機械(同+11.2%)や電気機械(同+20.0%)が全体を押し上げ。

#### 見通し

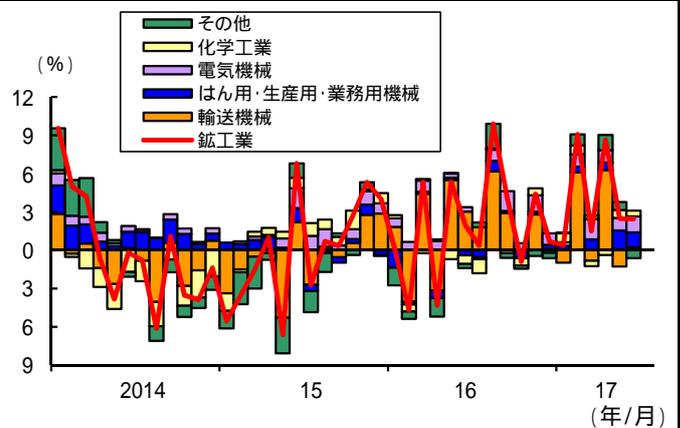
人手不足に対応するための工作機械などの生産が底堅い推移が見込まれるほか、輸出増加が続く新型車や自動車部品をはじめとする輸送機械の増産が生産の押し上げにつながる見通し。そのようななか、欧米の政策に対する不透明感や米国の自動車販売の下振れが生産活動の重石となる可能性があるものの、総じてみれば、緩やかな回復基調が続く見込み。

#### 6月 鉱工業生産

前年比+2.5%(8か月連続の上昇)

- ・輸送機械:  
前年比+0.5%(2か月ぶりの上昇)
- ・はん用・生産用・業務用機械:  
前年比+11.2%(8か月連続の上昇)
- ・電気機械:  
前年比+20.0%(11か月連続の上昇)
- ・化学:  
前年比+13.9%(2か月連続の上昇)

図表6 鉱工業生産指数<前年比>



(資料) 愛知県県民生活部統計課「愛知県鉱工業指数」

#### 企業倒産

一進一退

基調判断の前月との比較



水準評価

#### 現状

企業倒産は、一進一退。

8月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、倒産件数は37件(前年比 8件)と、2か月ぶりの減少(図表7)。また、負債総額は45億円(同+12億円)と2か月連続の増加。均してみると倒産件数は横這い圏での推移となる一方、負債総額はやや増加基調に。

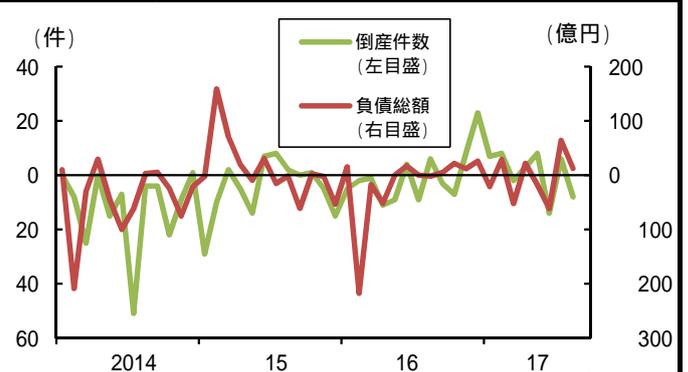
#### 見通し

製造業では、国内外需要の回復を背景に業況改善が期待される一方、非製造業では、飲食業や運送業などの人手不足が続く業種で全国倒産件数が増加するなど、人手不足が人件費の増加を招き、収益を圧迫する懸念も。総じてみれば、当面一進一退の状況となる見通し。

#### 8月 企業倒産

- ・倒産件数: 37件  
前年比 8件(2か月ぶりの減少)
- ・負債総額: 45億円  
前年比+12億円(2か月連続の増加)

図表7 倒産件数・負債総額<負債総額1,000万円以上>



(資料) ㈱東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

4. 個別部門の動向: 海外部門

<b>輸出</b>	<b>上向いている</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	↗
		<b>水準評価</b>	
<p><b>現状</b> 輸出は、上向いている。 7月の名古屋港通関輸出額は、前年比 + 10.7%と、6か月連続で増加。(図表8)。仕向地別にみると、中国(同 + 30.3%)が高い伸びを維持したほか、中国を除くアジア(同 + 9.9%)や西欧(同 + 14.7%)も全体を押し上げ。品目別では、自動車の部分品(同 + 26.8%)が大幅に増加。</p> <p><b>見通し</b> 7月の一般機械(中部5県主要メーカー)の海外受注高は前年比 + 35.1%と2か月連続の増加。地域別にみると、EU(同 + 43.8%)、北米(同 + 30.3%)、アジア(同 + 22.8%)など全ての地域でプラス。今後、海外情勢などに不透明感が残るものの、自動車関連製品需要が下支えし、緩やかな増加基調が続く見通し。</p>			
<p><b>7月 名古屋港通関輸出額</b> 9,804億円 前年比 + 10.7% (6か月連続の増加) ・中国: 前年比 + 30.3% (9か月連続の増加) ・アジア(中国を除く): 前年比 + 9.9% (2か月ぶりの増加)</p> <p><b>7月 一般機械海外受注高</b> 269億円 前年比 + 35.1% (2か月連続の増加) ・EU: 前年比 + 43.8% (4か月連続の増加) ・北米: 前年比 + 30.3% (2か月連続の増加)</p>		<p><b>図表8 名古屋港通関輸出額 &lt; 前年比 &gt;</b></p> <p>(資料)名古屋税関「管内貿易概況」</p>	

5. 個別部門の動向: 公共部門

<b>公共投資</b>	<b>底入れ</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	
<p><b>現状</b> 公共投資は、底入れ。 8月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比 3.6%と4か月連続の減少。また、請負金額は同 11.8%と2か月ぶりの減少(図表9)。発注者別にみると、国(同 + 58.1%)は増加したものの、愛知県(同 57.4%)では、前年に大きく増加した企業庁などが減少し、全体を下押し。</p> <p><b>見通し</b> 高速道路や橋梁の修繕などのインフラ事業は、老朽化に伴う維持・更新投資が底堅く推移する見込み。もっとも、愛知県や市町村では請負件数の前年割れが続いており、厳しい財政状況のなか、公共事業費の大幅な増加は見込み難く、先行きの公共投資は、緩やかな増加にとどまる見通し。</p>			
<p><b>8月 公共投資</b> ・公共工事請負件数: 868件 前年比 3.6% (4か月連続の減少) ・公共工事請負金額: 426億円 前年比 11.8% (2か月ぶりの減少)</p>		<p><b>図表9 公共工事請負金額 &lt; 前年比 &gt;</b></p> <p>(資料)東日本建設業保証(株)「愛知県内の前払金保証取扱高」(年/月)</p>	

## 県内経済トピックス (2017年8月)



### 1. 蒲郡市に「変なホテル ラグーナテンボス」が開業

8月1日、蒲郡市にロボットで効率的に運営する「変なホテル ラグーナテンボス」が開業。ホテルは2階建てで、客室は100室あり、テーマパーク「ラグナシア」に隣接。フロントには3体のティラノサウルスロボットがいるほか、客室のコミュニケーションロボットなど、様々なロボットがホテル滞在をサポート。変なホテルの開業は、2015年の長崎県のハウステンボス、今年3月の千葉県浦安市の東京ディズニーリゾートの近くに続き、本ホテルが国内3か所目。

ホテル内のレストランは、「癒し」と「食」をテーマにした複合温泉リゾート施設を運営するアクアイグニスを手掛け、ホテル同様「変化・進化し続ける」をコンセプトに、伊・仏・和・中の有名シェフが順番に料理のプロデュースをしていく。

### 2. 名古屋市に本拠を置く3社が自動運転技術の事業化で提携

8月9日、名古屋市に本拠を置くアイサンテクノロジー、岡谷鋼機、ティアフォーの3社は、自動運転技術の事業化に向けて、業務提携契約を締結。本提携では、ティアフォーの開発する自動運転プラットフォーム「Autoware」と、アイサンテクノロジーの開発する「高精度三次元地図」の組み合わせによる、ワンマイルモビリティ(過疎地など限定した地域で、時速30km以下の低速で自動運転車を走らせる交通システム)を実現し、一般道における公道実証実験をスピーディに進めるとともに、岡谷鋼機のネットワークを活かし新たなビジネスモデルを構築していく。過疎・高齢化、物流ドライバー不足や高齢者向け移手段の確保などの課題の解決策の一つとしてワンマイルモビリティの実用化が期待されている。

### 3. イオンが愛知県、中部電力と災害協定を締結

8月30日、イオンは、愛知県と「災害時における応急生活物資等の供給等の協力に関する協定」を締結。地震などの災害時、愛知県対策本部等へのイオン社員の派遣や、イオングループから応急生活物資等を供給するほか、平常時から連携訓練の実施などを行う。

また、同日、イオンは中部電力と「災害時における相互支援に関する協定」も締結。大規模災害発生時に、イオンは支援物資及び復旧拠点設営のスペースの提供を中部電力に行う。また、中部電力は自治体からの要請に基づき、イオンが店舗の敷地内に設けた一時避難場所に電力供給を行う。イオンと中部電力は、内閣府から災害時に国の要請に応じて緊急支援を行う指定公共機関に認定されている。

# 景 気 指 標

三重銀総研  
2017/9/25

## < 愛知県 >

(注) ( )内は前年同期(月)比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2015年	2016年	2016年		2017年		2017年				
			7~9	10~12	1~3	4~6	4月	5月	6月	7月	8月
大型小売店販売額(既存店)	( 0.4)	( 1.4)	( 2.8)	( 1.1)	( 1.5)	( 1.1)	( 1.3)	( 1.3)	( 0.7)	( 2.6)	
百貨店	( 0.0)	( 3.5)	( 5.3)	( 1.9)	( 0.2)	( 0.1)	( 1.9)	( 0.7)	( 0.8)	( 4.3)	
スーパー	( 0.6)	( 0.4)	( 1.6)	( 0.7)	( 2.2)	( 1.5)	( 1.0)	( 2.2)	( 1.4)	( 1.6)	
新車登録・販売台数(台)	244,528 ( 4.8)	256,872 ( 5.0)	65,787 ( 6.2)	63,692 ( 11.3)	78,225 ( 10.2)	60,440 ( 7.1)	16,638 ( 3.5)	18,332 ( 5.5)	25,470 ( 11.0)	19,922 ( 8.2)	17,496 ( 2.4)
有効求人倍率(季調済)	1.54	1.63	1.63	1.68	1.73	1.85	1.82	1.86	1.86	1.84	
新規求人倍率(季調済)	2.35	2.53	2.51	2.66	2.68	2.86	2.76	2.91	2.90	2.70	
名目賃金指数(調査産業計)	( 0.9)	( 1.7)	( 0.5)	( 1.8)	( 0.1)	( 0.8)	( 0.5)	( 1.1)	( 0.8)		
実質賃金指数(同)	( 0.2)	( 1.8)	( 1.1)	( 1.7)	( 0.0)	( 0.6)	( 0.4)	( 0.8)	( 0.5)		
所定外労働時間(同)	( 7.4)	( 2.9)	( 3.0)	( 6.6)	( 0.1)	( 1.3)	( 0.9)	( 3.7)	( 1.3)		
常用雇用指数(同)	( 0.7)	( 0.5)	( 0.5)	( 0.8)	( 0.7)	( 0.9)	( 1.0)	( 1.1)	( 0.5)		
新設住宅着工戸数(戸)	58,720 ( 5.1)	62,377 ( 6.2)	16,280 ( 2.4)	16,304 ( 12.8)	15,148 ( 0.4)	15,222 ( 4.4)	4,896 ( 11.3)	4,547 ( 10.2)	5,779 ( 12.8)	5,849 ( 5.1)	
鉱工業生産指数	( 0.1) -	( 1.7) -	( 4.4) < 2.2>	( 1.4) < 0.6>	( 3.5) < 3.0>	( 4.4) < 4.8>	( 8.7) < 8.9>	( 2.5) < 9.6>	( 2.5) < 5.5>		
企業倒産件数(件)	528	522	127	141	128	136	44	42	50	43	37
(前年同期(月)差)	( 58)	( 6)	( 6)	( 24)	( 13)	( 3)	( 3)	( 8)	( 14)	( 6)	( 8)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	3,601 ( 5.2)	3,450 ( 4.2)	879 ( 26.3)	898 ( 0.5)	694 ( 15.7)	884 ( 4.1)	409 ( 74.8)	194 ( 19.5)	281 ( 24.8)	308 ( 7.7)	
名古屋港 輸出(億円)	114,717 ( 0.9)	107,455 ( 6.3)	26,531 ( 6.6)	28,176 ( 7.1)	27,983 ( 6.3)	28,159 ( 6.5)	9,598 ( 4.1)	8,617 ( 12.1)	9,944 ( 4.4)	9,804 ( 10.7)	
公共工事請負金額(億円)	4,771 ( 3.4)	4,508 ( 5.5)	1,411 ( 3.4)	750 ( 12.5)	917 ( 23.9)	1,644 ( 2.4)	701 ( 9.4)	422 ( 46.9)	521 ( 4.4)	447 ( 6.6)	426 ( 11.8)
消費者物価指数・除く生鮮(名古屋市)	( 0.7)	( 0.5)	( 0.5)	( 0.5)	( 0.1)	( 0.0)	( 0.0)	( 0.1)	( 0.1)	( 0.5)	

## < 東海3県(愛知・三重・岐阜) >

	2015年	2016年	2016年		2017年		2017年				
			7~9	10~12	1~3	4~6	4月	5月	6月	7月	8月
大型小売店販売額(全店)	( 2.0)	( 0.0)	( 1.8)	( 0.0)	( 1.2)	( 0.8)	( 0.6)	( 1.1)	( 0.6)	( 1.9)	
同 (既存店)	( 0.2)	( 1.2)	( 2.6)	( 1.1)	( 2.0)	( 1.2)	( 1.2)	( 1.6)	( 1.0)	( 2.4)	
有効求人倍率(季調済)	1.49	1.61	1.61	1.65	1.68	1.80	1.77	1.80	1.82	1.80	
新規求人倍率(季調済)	2.22	2.40	2.41	2.52	2.52	2.68	2.62	2.72	2.72	2.62	
新設住宅着工戸数(戸)	79,215 ( 4.2)	83,446 ( 5.3)	21,583 ( 2.1)	21,845 ( 7.7)	20,071 ( 1.0)	20,757 ( 3.0)	6,694 ( 6.1)	6,345 ( 4.9)	7,718 ( 7.6)	7,662 ( 5.4)	
鉱工業生産指数	( 0.5) -	( 0.6) -	( 1.6) < 2.2>	( 0.2) < 0.9>	( 2.7) < 1.3>	( 5.5) < 4.0>	( 7.9) < 8.3>	( 6.3) < 6.9>	( 2.7) < 0.9>	( 5.5) < 4.1>	
企業倒産件数(件)	737	736	175	195	173	200	62	63	75	59	58
(前年同期(月)差)	( 122)	( 1)	( 8)	( 41)	( 0)	( 7)	( 6)	( 5)	( 4)	( 7)	( 8)
域内外国貿易 純輸出(億円)	73,097	75,739	18,434	20,806	17,792	19,357	6,737	5,318	7,297	6,900	
輸出(億円)	163,679 ( 3.7)	149,433 ( 8.7)	36,270 ( 11.1)	39,417 ( 7.6)	38,516 ( 3.0)	38,726 ( 6.5)	13,117 ( 3.5)	11,905 ( 12.8)	13,706 ( 4.5)	13,436 ( 9.4)	
輸入(億円)	90,582 ( 8.6)	73,694 ( 18.6)	17,836 ( 23.5)	18,611 ( 13.2)	20,723 ( 6.5)	19,369 ( 8.9)	6,379 ( 12.0)	6,587 ( 8.1)	6,410 ( 6.9)	6,536 ( 11.8)	

：各指標における直近の数値